

スキーの歴史

指導員養成講習会 理論2

担当 小浅知美

スキー指導員検定養成講習会 のカリキュラム

- スキーの歴史的発展論

実用的スキーからスキースポーツとしての発展、世界におけるアルペンスキーの確立と発展、さらに日本における近代スキーの導入と発展について理解を深める。

- スキーの発祥(スキーの始まり)

- アルペンスキーの興隆と発展

- 日本のスキー興隆と発展

- スキーの技術発展史

アルペンスキー技術の確立と現代スキー技術への発展の過程を理解する。

- リリエンフェルトスキー滑降術からパラレルターンの確立

- インタースキーと技術発展の系譜(技術論争から技術の普遍化)

- 日本における現代スキー技術の変遷

スキーの歴史

～スキーの発展と技術の変遷～

- **スキーの始まり** (p104)
 - 1) スキーのルーツ
 - 2) 日本でのスキーの記録
- **近代スキーの興隆と発展** (p105 ~ p109)
 - 1) スポーツとしてのスキーの興隆
 - 2) アルペンスキーの興隆
 - 3) 日本の近代スキーの始まり
 - 4) 競技スキーとアルペンスキー技術の革新
- **現代のスキー** (p110 ~ p114)
 - 1) 外傾技術とローテーション技術
 - 2) バインシュピール技術と日本のスキーの発展
 - 3) 世界のスキーはひとつ技術論争の終焉
 - 4) 日本における競技スキーの興隆と発展
 - 5) 社会の変化とスキーの多様化
 - 6) 指導者の育成と認定制度

スキーの始まり

- スキーのルーツ

- ・スキーの発祥は紀元前2500年頃から、雪上を歩く交通手段や狩猟のための移動道具として広く使われていた
- ・現存するスキーの最古の遺跡は約4500年前のものとして有名
- ・“ストー”や“ソルメ(雪馬)”などは、滑走する機能をもつスキーの原型

- 日本でのスキーの記録

- ・1784年に曾江真澄が描いた「立ちソリ」や1808年 間宮林蔵が表した「北蝦夷図説」の中にスキーに似た雪具がみられた

近代スキーの興隆と発展 1

● スポーツとしてのスキーの興隆

- ・生活する為の道具 競技スポーツ(1870年)
スキーは一般庶民へと普及し北欧全域に広がった
- ・オスロにてスキークラブが結成(1877年)
- ・第1回ジャンプ大会開催(1879年) スポーツ競技スキーの始まり
- ・スキー学校の設立(1880年)
- ・スキー連盟の設立(1883年)

ノルディックスキー競技が北欧を中心として発達

近代スキーの興隆と発展2

● アルペンスキーの興隆

- ・マチアス・ツダルスキー(オーストリア)リリエンフェルト式バインディングを考案
- ・山岳滑降に適応する一本杖の「山岳スキー滑降術」を発表(1896年)



シュテムと杖による制動回転技術

- ・ゲオルク・ビルゲリー(オーストリア)が二本杖でのシュテムによる回転技術を中心としたスキー技術を発表 近代アルペンスキー技術の基礎が確立

ハンネス・シュナイダーにより

- ・映画「スキーの驚異」が完成(1920年)
- ・技術書「アールベルグ・バイブル」を出版(1924年)



アールベルグ・スキー術が世界に広がった

1930年シュナイダー来日、日本でも当時のスキー界を風靡

近代スキーの興隆と発展3

● 日本の近代スキーの始まり

- ・レルヒ少佐が高田第13師団に着任(1911年)
日本で初めて本格的なスキー術の講習会が実施された
- ・(財)全日本スキー連盟は初めて日本で本格的なスキー講習会が行われた1月12日を「スキーの日」に制定(2003年)

● 競技スキーとアルペンスキー技術の革新

- ・第1回冬季オリンピックがシャモニーで開催(1924年)
同時に世界スキー連盟(FIS)が誕生
- ・全日本スキー連盟(SAJ)が創設(1925年)
- ・第4回冬季オリンピックよりアルペン種目が正式種目となる(1936年)
- ・高速を求める技術研究　パラレル技術を完成

現代のスキー 1

● 外傾技術とローテーション技術

- ・アルペン技術はローテーションを否定する方向へと進む
- ・「今日のスキー」・「自然なスキー」 外向・外傾技術を主張
- ・「スキー・フランス」 ローテーション技術を主張

日本にほぼ同時期に両技術論が紹介され、「外傾技術」に共鳴する人が多かった



- ・ローテーション技術と外傾技術をめぐる論議が活発
- ・オーストリアにて第1回インタースキー開催(1951年)

現代のスキー 2

● バインシュピール技術と日本のスキーの発展

- ・「オーストリア・スキー教程」日本語版の出版(1958年)
- ・「SAJスキーテキスト」の発刊(1959年)

バインシュピール技術を根幹とした



日本とヨーロッパの交流が活発となる

● 世界のスキーはひとつー技術論論争の終焉

- ・第8回インタースキー 「世界のスキーはひとつ」に向かって前進
- ・曲げまわし、伸ばしまわし 交互操作とステップ系 カービング

現代のスキー 3

● 日本における競技スキーの興隆と発展

- ・第1回全日本スキー選手権大会が小樽で開催(1923年)
- ・第2回冬季オリンピック(スイス) 日本初参加
- ・第11回冬季オリンピック札幌大会開催(1972年) 日本で初開催

● 社会の変化とスキーの多様性

- ・第11回インタースキー蔵王大会開催(1979年)アジアではじめて
- ・第16回インタースキー野沢温泉大会開催(1995年)

● 指導者の育成と認定制度

- ・山形県五色温泉で第1回指導員検定講習会開催(1939年)